

努力賞 (子どもの部)

「絵本とは」

荒川区立第三中学校二年

高知 有紗

『そらまめくんのベッド』という絵本を小さいころに読んだことがある人は多いと思います。この絵本は、短い文の中に、友情関係、優しさ、人の気持ちを考えられる心といったものが詰まっています。はじめはベッドを貸してあげなかつたそらまめくんや、貸してもらえなくて拗ねていたお友達たちの、心の変化が深く見られるところが、この絵本の良いところだと思います。最後は、お友達たちが自分のベッドを貸してあげたり、自分の大切

なベッドなのにも関わらず、うずらのたまごの心配をするそらまめくんなどといった、友達への思いやりが見られて、とても感動するお話だと思います。

私は小さい頃に、この絵本を読んだことがあります。ですが小さい頃は、こんなにも色々考えることが出来る絵本だとは全く思いませんでした。「絵本」というものは、ずっと小さい子が読む本だと思っていました。ですが、中学生になってから読むと、同じ絵本とは思えないくらい、内容の見方や、捉え方がちがってくることを実感しました。小さいときには分からない、またちがった絵本の良さに気づくことができました。

絵本は、何歳の人を読んでも楽しめる、すてきな作品だと思います。絵本を何年も読んでいない方

にはぜひ、小さい頃に読んだことのあるものを、手
にとってみてほしいです。